

あなたを待つWESS百年祭

準備着々と進む

稲門英語会だより

第2号
平成6年
6月1日
第3期

記念祭の内容

日本の大学英語会史上でも画期的といえる百年祭を祝うことになったWESSでは英語会と稲門英語会の共同主催で、五月二十八日(土)に百年記念祭を行います。推進委員会のメンバーの尽力により記念行事の準備が着々と進められております。第一号で紹介した内容とは一部異なる点もありますが、内容は左記の通りではほぼ固まりつつあります。

「合宿はWESSの生命だった」

百年史編集室から

野尻湖合宿盛衰記 伊東克己
昭和四年(1929)に第一、第二期の高等学院の英語部が初めて野尻湖合宿を行ってからは、昭和六年(1931)に大野尻湖合宿が野尻湖に第一回合宿をした。

記念植樹 午前10時
場所 演劇博物館前
式典 午後一時～二時半
会場 非深ホール(安部球場跡)
式次第
挨拶 英語会幹事長(學生)
稲門英語会会長(中瀬)
祝辞 早稲田大学幹事長(小山)
記念講演 未定
コーラス 早稲田大学グリークラブ
表彰 個人及び法人
閉会挨拶 英語会会長(東後)
祝賀会 午後四時
会場 リガロイホテル・ワセダ
会費 一万円(予定)
プログラム
百年の歩み(伊東百年史編集委員会)
委員長 乾杯 OJ最長老
アトラクション1
小林洋のピアノと細川綾子のヴォーカルによるジャズ
飲談のためのフリータイム
アトラクション2
杉村英恵のシャンソン
閉会挨拶 稲門会幹事長

野尻湖合宿盛衰記 伊東克己
昭和四年(1929)に第一、第二期の高等学院の英語部が初めて野尻湖合宿を行ってからは、昭和六年(1931)に大野尻湖合宿が野尻湖に第一回合宿をした。それまで、アウチングと称して効外にピクニックを行うことはあっても、合宿をしたことはなかった。初期の合宿参加者は全部で五名ぐらい、期間は二週間、費用は宿費一日七〇銭、往復汽車賃五円だった。宿は小松屋、栄泉堂、野尻屋などである。目的は英語の勉強で、外人村との交流が狙いだったが、それなりの成功をおさめて、昭和九年(1934)には人数も五〇名になり、合宿の行事が定着した。当初は、少々はしやみすぎの気味もあつた合宿だったが、落ちついてくると、真面目に勉強しようという反省が起こり、外人教師や教授たちが同行するようになった。時代は世界恐慌のさなかで、満州事変、日中戦争から太平洋戦争に突入しようというときであったから、軟弱な学生が野尻湖あたりで外人とたらしなく遊んでいるという批判は避けなければならなかった。

追記
今年百年記念祝賀会を五月二十八日に開催しますが、これに先立ち、例年通り稲門英語会総会を左記の通り開催することになりましたので、ご案内いたします。
百年祝賀会の前夜祭です。皆さんお誘い合わせの上、ご参加ください。
日時：三月二十三日
午後六時より
場所：大隈ガーデンハウス
会費：五千円
議題：事業報告
会計報告
役員改選
新入会員歓迎
英語会幹事紹介
田代アツシ
田代アツシ
百年記念祝賀会の正式な案内は四月末に返信ハガキとともに皆様宛送りますが、出席者の概数を把握するため、アンケートを行ないます。お手数ですが、同封ハガキにて予定をお知らせ下さい。
なお、この返事はあくまで予備調査であり、それにより出欠を拘束するものではありません。

1993年度
早稲田大学英語会活動報告
活動方針
1993年度早稲田大学英語会は、英語を学ぶことを通じて社会全体の発展に貢献すべき大学生が何を身につけるべきかを考え、以下の目標を設定し、その達成のために二年間活動して参りました。以下にその概要と成果を報告します。
目標：将来、国際化した社会において、自分の携わる社会を進むべき方向に導いていくために、他の人々を説得する為の英語の技術を習得すること。
我々は上記の目標を達成するために必要要素として以下のものを考えました。
①自己のいい、このに客観的な理由付けをする技術
②自己のいい、このに客観的な理由付けをする技術
③自己のいい、このに客観的な理由付けをする技術
④自己のいい、このに客観的な理由付けをする技術
⑤自己のいい、このに客観的な理由付けをする技術

内部活動
3月*Home to Home Debate(新2年全)
4月*新入生勧誘2,3年全
5月*Jr. Speech Contest(1,2年全)
5月*Jr. Speech Contest

対外活動
4月*JUEL春の2人制 Debate 3位
5月*JUEL Speech Contest 優勝
9月*早慶 Speech Contest Society prize
10月*東西6大学英語弁論大会 East prize
12月*大隈杯弁論大会 2位
12月*早稲田大学英語弁論大会 2位

総括
近年、情報化社会といわれるようになり、多くの学生が英語に関する情報に基づき、英語学習に取り組むようになりました。しかし、その中の多くの学生は十分な英語力を得るまま途中で挫折していると言われています。その理由としては、語学学習本来の姿勢である自ら努力する姿勢を忘れる、すなわち所謂「手段の目的化」の現象が起こっていると考えられます。我々早稲田大学英語会は、本年も目標を設定し、その達成のために二年間活動すること効果的な英語力向上を図って参りましたが、対外活動の成果に象徴されるようにその結果は決して

我々が望んでいたものに至ったとは言いがたいものでした。その理由は、先に述べたものと同様であると思われ、その原因としては、目標をそれ自体に対する認識の低さ、及び各活動における効果的英語学習の具体的な方法に対する認識の甘さが考えられます。また、人間性については、組織的な集団行動を通しての協調性の向上は果たすことができたと思われ、集団に対する自主性及び責任感の欠如が目立った一年となりました。この理由としては、集団行動の特性に対する意識の低さが考えられます。以上1993年度の活動報告を通して総括しましたが、五役を務めた一人として、会員の充実した学生生活を支援すべく、今後上記の様な問題に取り組んでいく所存であります。
1993年度
早稲田大学英語会幹事長
木下 達哉

現在のWESS!

一過密スケジュールと
予算不足に悩む現役一

Delivery: 自己のいいことを声と体で表現する技術
これらの要素を身につける為に、我々は以下の活動を行ってきました。
Debate: Logicを身につける活動
Speech: Rhetoricを身につける活動
Drama: Deliveryを身につける活動
我々はまた、上記の目標と関連して、社会に出るべき学生が身につけるべき要素として人間性を挙げました。
協働性: 共通の利益の達成のために、他の人々と共に進もうとする姿勢
責任感: 共通の利益の達成のために、与えられた自分の役割を最後まで果たそうとする姿勢
自主性: 自ら進んで物事に取り組もうとする姿勢

我々が望んでいたものに至ったとは言いがたいものでした。その理由は、先に述べたものと同様であると思われ、その原因としては、目標をそれ自体に対する認識の低さ、及び各活動における効果的英語学習の具体的な方法に対する認識の甘さが考えられます。また、人間性については、組織的な集団行動を通しての協調性の向上は果たすことができたと思われ、集団に対する自主性及び責任感の欠如が目立った一年となりました。この理由としては、集団行動の特性に対する意識の低さが考えられます。以上1993年度の活動報告を通して総括しましたが、五役を務めた一人として、会員の充実した学生生活を支援すべく、今後上記の様な問題に取り組んでいく所存であります。
1993年度
早稲田大学英語会幹事長
木下 達哉

百年祭を記念して演劇博物館の前という願ってもない場所に桜の木を植樹することになりました。植樹式は五月二十八日の午前10時から行いますので、皆様式典会場から祝賀会場へ移動される途中新しい桜の木をご覧いただけます。予算百五十万円。会費を納入しませう。

かなり以前から、稲門英語会から、学生に資金援助をして来ましたが、金額は些少です。もっと支援したい、当会自体ももっと潤沢な資金で運営する必要があります。財源は皆さんの会費です。千五百人の全会員から会費を頂戴したいのです。今年も会費納入の時期となりました。忘れずに納入してください。

大学の近況

卒業年度、母校再訪の多寡など、大学周辺の「変化」の知識はさまざまですが、以下の情報をお持ちだろうか。安部球場跡地に国際会議場と知識の宝庫である中央図書館を内蔵した「総合学術情報センター」が建つ。大隈講堂を右手に見て右折し、遊歩道を通ると「ガーデン・ハウス」というカフェテリアがあり、大隈庭園を眺めながらゆったりと食事が出る。背後には「情報科学研究教育センター」が建つ。これは「伝統の早稲田」キャンパスを十分も散策すれば、きっとあなたの早稲田を再発見できるだろう。

生まれ変わる稲門英語会

会則・役員の大改造なる

世界に雄飛する会員を抱える当会の性格上、昔から会員の住所変更が頻繁で動静の把握が満足に行えていない。年次によつては、卒業以来親睦会も開いていないというのを聞いています。

当会の活性を取り戻し、会員相互間の交流を促進し、なにより、善悪を承継するために力を提供するボランティアが必要とす。

誰が適当かということには仲間同士では分るはず。昔、五役を勤めたとしても、現在海外勤務で世話を引き受けられませんか。いくら出世したり、著名になつても、忙しすぎて世話役の役割を果たせないというのでは困ります。

卒業年次ごとに実質的に活動可能な世話を推薦いただき、当会の幹事を委嘱することを明文化したのが、大きな改正点です。幹事は本人の事情で、随時交代可能になります。

その幹事の中についても会議に参加し、汗をかいていただける人物を選んで常任幹事を委嘱し、その常任幹事をもつて実質的な最高運営組織とするのが最も重要な改正部分です。

従来のように大先輩が指名する役員委嘱方式から大きく改訂し、会員の皆さんが選出する役員委嘱方式に変わったのです。

この三月の総会までに年次別幹事を選出していくべく、ぜひともなっていますので、ぜひ皆様に参加して適役の人物をご推薦いただきたいものです。新しい執行部が新しい感覚で当会を活性化することを大いに期待してはおりません。

新会則をぜひご覧ください。

いま流行の改革ブームに乗つたわけはありませんが、稲門英語会の会則が昨年の総会で改訂されたのを存知してでしょうか。

改訂の主旨は、組織を縦横にかつちり固めて、活発に活動が出来るように、改組することにあります。

●会則の改訂
活性化の鍵は新幹事選出
小林秀之(昭30)

●新・稲門英語会会則

- 第1条(名称) 本会は稲門英語会と称する。
- 第2条(目的) 本会は会員相互に師弟の情誼、同窓の親睦を厚くし、併せて早稲田大学英語会の発展のために、各種の事業をおこなうことを目的とする。
- 第3条(所在地) 本会は事務所を早稲田大学英語会内におく。
- 第4条(役員) 本会は左に掲げる者をもつて組織する。
 - 1. 特別役員：早稲田大学英語会関係諸教授及び講師
 - 2. 通常役員：早稲田大学英語会出身者
 - 3. 準役員：早稲田大学英語会出身者
 - 4. 会長：早稲田大学英語会に尽力した者
- 第5条(役員) 本会は次の役員をおく。
 - 1. 会長：会長・総会により適宜推薦する。
 - 2. 顧問：過去に本会の会長、幹事を務めた者
 - 3. 顧問：過去に早稲田大学英語会会長または副会長を務めた者
 - 4. 会長が推挙し総会で承認を得た者
 - 5. 会長1名・顧問会が協議して推薦し総会で決定する。
 - 6. 副会長若干名：同右
 - 7. 監査若しくは、会長が指名を委嘱する。但し総会で信任を問う。
 - 8. 幹事長1名・同右
 - 9. 副幹事長若干名・同右
 - 10. 常任幹事：第九条で定める手続きにより選出し、会長が委嘱する。

に参加する。

幹事長に事故あるときは副幹事長が代理を務める。

幹事長は会務全般にわたる常任幹事会に諮り審議を求め、会務を執行する。

そのため幹事長は随時常任幹事会を召集開催する権限を有し、必要に応じて、委員会あるいは事務局等を設置し、人員を雇用し経費を支出することができる。

4. 幹事は選出母体である入会年次別通常役員との連絡を保ち、会員の動静を把握し常に最新の会員名簿データの保全に努めるとともにその意向を代表して本会の運営を企画し案件を審議し会務を執行する。幹事は会務に関する案件審議決定の権限を常任幹事に委譲し、その決定に従って行動する。

5. 常任幹事は常任幹事会に参加して本会の運営全般に於いて企画提案を行い、議事を審議し決定する。

6. 会計幹事は本会の財務を担当し、責任をもって会計を処理し財産の保全をはかる。

7. 監査は本会の会計を監査する。

第8条(幹事) 本会の通常役員は入会年次ごとに常時三名の幹事を選出し、会員の意志を代表せしめる。

3. 幹事長は会長の指導のもとで幹事会および常任幹事会を組織し、それぞれの議長として会長を補佐し諸般の会務を処理する。

幹事長は顧問会の審議を受ける。

9. 幹事：第八条で定める手続きにより選出し、会長が委嘱する。

10. 会計幹事若干名：通常役員の中から会長が指名し委嘱する。

第6条(任期) 本会の役員は任期は2年とし、隔年総会の決議により選任される。ただし、重任を妨げない。

第7条(分掌) 1. 会長は本会を代表し、本会の運営を統括する。会長に事故ある時は副会長が代理を務める。会長は通常役員の中から幹事、常任幹事を委嘱する。

2. 副幹事長、副幹事長は幹事長、副幹事長を指名委嘱する。会長は会計幹事を指名し本会の会計処理を委嘱する。

3. 顧問は顧問会を組織して会長の諮問に答える。顧問会は顧問のほか名譽会長、会長、副会長、幹事長と早稲田大学英語会会長を加えて構成し、会長が議長を務める。

4. 顧問会は会長、副会長の人事を審議し総会に諮り承認を求め、そのため幹事長は随時常任幹事会を召集開催する権限を有し、必要に応じて、委員会あるいは事務局等を設置し、人員を雇用し経費を支出することができる。

5. 幹事は選出母体である入会年次別通常役員との連絡を保ち、会員の動静を把握し常に最新の会員名簿データの保全に努めるとともにその意向を代表して本会の運営を企画し案件を審議し会務を執行する。幹事は会務に関する案件審議決定の権限を常任幹事に委譲し、その決定に従って行動する。

6. 会計幹事は本会の財務を担当し、責任をもって会計を処理し財産の保全をはかる。

7. 監査は本会の会計を監査する。

第8条(幹事) 本会の通常役員は入会年次ごとに常時三名の幹事を選出し、会員の意志を代表せしめる。

3. 幹事長は会長の指導のもとで幹事会および常任幹事会を組織し、それぞれの議長として会長を補佐し諸般の会務を処理する。

幹事長は顧問会の審議を受ける。

体となる入会年次の通常会員の動静を常に把握し、本会と会員との間の連絡交流を担当するとともに本会の目的を達成するために幹事を構成する一員としての責務に任ずる。

自己都合その他の事由により幹事の交代を必要と認められる場合は、3名のうち残り2名の幹事が遅滞なく交代者を選出し、会長の委嘱を得る。

第9条(常任幹事及び常任幹事会) 各年次別幹事3名は、そのうち1名を常任幹事として指名し、会長の委嘱を得る。常任幹事は首都圏在住者であつて、常任幹事会の会議に随時参加できる条件を備えている者でなければならぬ。

住居移転その他の自己都合により常任幹事の交代を必要とする場合は、当該年次の幹事が協議し交代者を選定し、円滑な交代をはからなければならぬ。

常任幹事会は会長、副会長、幹事長、副幹事長、常任幹事、会計幹事、および早稲田大学英語会会長で構成し、本会の会務に関する企画提案を審議し、議決する。

第10条(総会) 本会は毎年1回3月に総会を開く。

常任幹事会が開催を求めた場合および50名以上の会員により要求があつた場合は臨時総会を開催する。

臨時総会は次の議事を審議し議決する。

- 1. 会長、副会長の選出
- 2. 前総会以降に会長が委嘱した役員信任
- 3. 新入会者の承認
- 4. 会計報告の承認
- 5. 事業報告および計画の承認
- 6. 会則の変更改訂
- 7. 表彰
- 8. その他会長提案議事

第11条(議決) 顧問会、常任幹事会、幹事会、総会の議事は出席会員の過半数で決定する。可否同数の場合は議長決定とする。

第12条(収支) 本会の経費は会費寄付金およびその他の諸収入をもつて支弁する。

第13条(会費) 通常役員は毎年会費を納入する。会費の額は総会の承認を経て決定する。

第14条(会計年度) 本会の会計年度は1月1日に始まり12月末日に終わる。

第15条(報告) 本会の報告は早稲田大学報に掲載する。以上

小林公子(昭39)

大正15年卒の杉本正樹さん。成城のお宅にお訪ねした。柔らかな日差し、いっばいの部屋で楽しいお話を始めました。

杉本さんが早稲田の専門部に入學し、同時に英語会に入会したのは、大正12年のことだった。

「それまでの英語会はたいして発展してなかったんだ。幹事をやっていた同期の高橋武一、平岡弘男らが学校に働きかけて、補助金を多くしてもらった。それで稲門会もやろうということになって、平岡が主になって先輩を訪ね歩いていったんだ。中瀬さんと杉本さんとが。私も高橋、平岡と一緒にいきましたよ。それで第一回の稲門英語会の会長は中瀬さんになっていった。今の会長の中瀬さんのお父さんだね。」

その頃の部屋は金庫と呼ばれ、昔の文学部の前、まだ建設されてない今の図書館のあたりにあった。

「長屋のような場所だった。建て小屋があつてね、雄弁会新聞部、英語会も入つていました。そこで、お昼は毎日、会話の練習をやっていた。先生はリリアン・北島先生、ミセス・ケート先生、ローラ・トルネ先生(南極探検家アムゼンセン氏の姪)などがおられましたね。食事もそこそこ、みんな集まつてましたよ。全員そろつたとしても二〇〇人だったからね。ドラマもオラトリカル・コンテストも大学のデイビッドもやってましたよ。」

杉本さんが英語に興味を抱くようになったきっかけは、早稲田中時代代に英語の教師、ベニングホフ氏に発音を

はめられたからだ。パプティストの宣教師だったベニングホフ氏は英語会の創設にも関わった人。大隅重信侯に重んじられ、早稲田に招聘された。英会話の上達を願っていた杉本さんは、ベニングホフ氏が牛込弁天町に設立した奉仕園の中の教会に通うようになった。関東大震災もベニングホフ氏が家へ迎えた。大正12年のことだから、ちょうど杉本さんが入學した年の9月1日だった。

「よく来たね。昼飯でもいっしょに食べよう。先生はキッチンでカレーを作っていたんだ。私も長男のメルは同じ年、二人でボーテを話していた。その時でしたよ。ガタガタガタと……。親父がいてはいたんだけど、親父がその時思いました。先生はキッチンの方からメル、メルと呼ぶ。一方はダイ、ダイと呼び合つている。私のことなんかどっかいてしまつている。(笑)しばらくしてから、スキモトイズ、ヒアてなりました。」

歯切れのいいべらんめえ調がますます湧いてくる。

卒業後、大阪で就職した杉本さんだったが、その後昭和八年、満州鉄道に移り、英語会とのかわりも疎遠になった。が、「終戦をむかえた昭和二年に帰国、高橋、平岡とはすぐ連絡を取りましたよ。学生時代、すっかり身につけた英語だったが、それを生かすチャンスはそう多くなかった。が、七〇才を目前にした杉本さんにハワイのホテル経営の話が持ち込まれてきた。依頼人は稲門英語会の会長だった潮田定一氏(アサヒ都市開発社長、まずホテルに赴

き、次いでサンフランシスコに移り、現地で稲門会会長も務めた。

それより前に一度、杉本さんの英語が役に立ったことがあった。終戦直前のことだった。満鉄に務めていた杉本さんも軍隊に召集されて、中国の奥地へ。その時、引き揚げたくも術を知らないイタリアの尼さんと牧師さんに会った。誰か英語を話せる人はいませんか? ということから、杉本さんは軍の通行証明を渡され、彼らが無事に北京に帰れるよう取り計らった。

お礼をしたくても何もないので、かれらがいられてくれたはちみつ入りの紅茶。お返しに持って帰った。カルーソーが好きだった杉本さんはイタリアの歌を所望した。

「サンタルチアを2度、歌つてくれました。戦場で聞くサンタルチアはまた格別でしたよ。」

その時のことを思い出さずには、歌声はいつでも杉本さんの耳にもどってくるようだった。

◆村上省一(昭47卒)の急逝を悼む

酒井莊多(昭47)

十一月十六日、君が住んでいたコネチカットの高速道路出口で交通事故で死亡したという日経産業新聞の記事を岡田さん(四十六年卒)が連絡してくれた。本当にまいった。バカヤローと叫びたい気持ちだった。家に返る途中の夜道で涙がとまらなかつた。君はバイタリティー溢れるタフマンであると同時に、人の気持ちを大事にする優しさを持つた立派な男だった。これからお互い頑張ろうと言う時に、残念だ。でも、安らかに眠ってください。君の魂は永遠です。

創成期の想い出

小林公子(昭39)

大正15年卒の杉本正樹さん。成城のお宅にお訪ねした。柔らかな日差し、いっばいの部屋で楽しいお話を始めました。

杉本さんが早稲田の専門部に入學し、同時に英語会に入会したのは、大正12年のことだった。

「それまでの英語会はたいして発展してなかったんだ。幹事をやっていた同期の高橋武一、平岡弘男らが学校に働きかけて、補助金を多くしてもらった。それで稲門会もやろうということになって、平岡が主になって先輩を訪ね歩いていったんだ。中瀬さんと杉本さんとが。私も高橋、平岡と一緒にいきましたよ。それで第一回の稲門英語会の会長は中瀬さんになっていった。今の会長の中瀬さんのお父さんだね。」

その頃の部屋は金庫と呼ばれ、昔の文学部の前、まだ建設されてない今の図書館のあたりにあった。

「長屋のような場所だった。建て小屋があつてね、雄弁会新聞部、英語会も入つていました。そこで、お昼は毎日、会話の練習をやっていた。先生はリリアン・北島先生、ミセス・ケート先生、ローラ・トルネ先生(南極探検家アムゼンセン氏の姪)などがおられましたね。食事もそこそこ、みんな集まつてましたよ。全員そろつたとしても二〇〇人だったからね。ドラマもオラトリカル・コンテストも大学のデイビッドもやってましたよ。」